

各常任委員会の行政調査を実施



総務
6月19日
～
20日

調査内容

〔安平町追分中学校〕

安平町追分中学校の改築における設計基本コンセプトとして3つのテーマを掲げて建設されました。

◆安全・安心な学校づくり

生徒たちが安全に通学し、安心して生活できることが基本で通学における安全なアプローチの確保・不審者の侵入に対して見通しの良い建物立地、防犯対策、冬期間の風雪対策、耐震性の確保、生徒たちが安心して生活できる学校づくり

◆地域に開かれた学校づくり

学校は未来を担う生徒たちの教育の現場であり、また地域との「コミュニティ活動の拠点施設としての役割も果たしており、

あひらちよう
【安平町（胆振管内）・浦幌町（十勝管内）】

うらほろちよう

各中学校校舎の改築事業について

学校・家庭・地域の連携強化、交流を図る上から、また生涯学習活動のための環境整備、学校開放による地域利用への配慮が必要となる。

◆環境に配慮した学校づくり

地域環境的な配慮を学校施設に盛り込んでいくことは教育的な観点から大切です。窓からの十分な自然採光や夏場の心地よい風の取り込み、また技術的な工夫で断熱性、気密性を確保し、熱負担を小さくすることによる省エネルギー・ランニングコストの削減、科学物質等の発生を低く抑えた内装材料の選定に留意したり、またでぎうる限り「木」などの自然的素材の活用やリサイクルを考慮した建築材料の活用な

安平町追分中学校前



浦幌中学校での調査



ど環境にやさしい空間づくりをしています。

〔浦幌中学校〕

浦幌中学校は平成21年度のために適用される文部科学省の有利な地域活性化・公共投資臨時交付金を活用し、現敷地内での全面改築を行うことが最も望ましい方向と位置付け、改築に当たっては、財政負担を少しでも

軽減するための措置として交付金単価を限りなく実施単価に近づけるよう積極的に関係機関への働きかけを行うとともに、地場産木材の活用や太陽光パネルの設置など環境に配慮した取り組み、さらには教育現場の意見を十分反映できるように「浦幌中学校校舎及び屋内体育館改築等に関する調査特別委員会」を設置し、改築に臨んだ。

委員会所見

両校とも「地域環境的な配慮」を十分盛り込み「木」などの自然素材の活用が多く「暖かみ」のある校舎のつくりでした。

また追分中学校は予期せぬ自然災害への対応として、地域緊急避難場所として屋内体育館にトイレ・シャワー室を設置し、家庭科教室を緊急の炊き出しの場として活用できるように設計されています。

比布中学校も「安全」で楽しく、豊かな人間性への育成の場」としての学校空間をつくっていくことと同時に災害時の緊急避難場所としての活用も考慮に入れ、改築すべきだと思えます。

産業建設
6月27日
～
28日

【伊達市】・農業振興について
【北広島市】・くるるの杜が目指す北海道農業への貢献と取り組み

農業への貢献と取り組み



伊達市役所前

調査内容

訪れた伊達市は農業、林業、漁業と多くの産業がありますが、基幹産業は農業です。しかし、農家戸数・就業人口ともに減少傾向を示し、少子高齢化に伴い、野菜作りにシフトを変えていきました。同市は気候に恵まれ、何を栽培しても育つ地域ですが、多種で特徴がないのが悩みであり、農業の活性化、高収益率等、方針

が出ない期間が続いていました。市の呼びかけにより、各農家が軽トラックに野菜を積んで販売する日曜朝市は、「伊達市の野菜はどこで買えるのか」というお客様の要望から始まりました。開催実績は、平成21年に開催回数25回、総売上525万円、総来場者6710人だったのが、平成23年には開催回数26回、総売上806万円、総来場者数1万1350人まで増えました。そこで市は、従来の観光物産館では国道からの視認性が低く、物販スペースが狭いなどを理由に新築移転し、本年4月にオープン。従前までは、運営と管理をNPO法人だて観光協会が行いましたが、特定非営利活動法人が収益事業を行うには一定の制約があることから市と市内経済関係団体の協力を得て新たに株伊達観光物産公社を設立し指定管理者として運営しています。また、農産物直売コーナーでは、

70戸の農家で組織する販売協議会を設立し出展や売上ルールを決めて運営しています。過去に有珠山の噴火により一時、宮城県亘理町（昭和56年ふるさと姉妹都市の提携）へ一部の市民が避難した経緯もあり、東日本大震災で甚大な被害を受けた亘理町のイチゴ生産者を対象に国の緊急雇用創出推進事業を活用し、現在6戸11人が移住しています。就農の場を提供すると同時に、試験栽培を実施し、適した品種、栽培方法の確立を目指し、イチゴ生産に意欲を持つ農業後継者や新規就農者に栽培技術の導入と普及・拡大を狙いとして一方通行ではない支援策を実施しております。これにより平成24年度は試験栽培品種、加工用「すずあかね」約200本、生食用「なつみ」約1100本等ともに1キ。当たり2千円の高値で出荷され、取扱希望業者が今も多くいます。